

3 旅行・行楽

(1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は約9144万人、行動者率は80.9%

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は9143万9千人で、10歳以上人口に占める割合(行動者率)は80.9%と、多くの人々が日常の生活圏を離れて「旅行・行楽」に出かけている。行動者率を平成8年と比較すると、1.9ポイント低下している。

行動者率を男女別にみると、男性は79.8%(行動者数4397万3千人)、女性は81.8%(4746万6千人)で、女性がやや高くなっている。これを平成8年と比較すると、男性は2.6ポイント、女性は1.4ポイント、それぞれ低下している。(表3-1)

表3-1 「旅行・行楽」の種類別行動者数・行動者率

	(千人, %)								
	総数			男		女			
	行動者数	行動者率	増減	行動者数	行動者率	行動者数	行動者率		
総数	91439	80.9	(-1.9)	43973	79.8	(-2.6)	47466	81.8	(-1.4)
行楽(日帰り)	74178	65.6	(-0.3)	34623	62.9	(-0.4)	39555	68.2	(-0.1)
旅行(1泊2日以上)	77684	68.7	(-2.8)	38107	69.2	(-3.3)	39578	68.2	(-2.3)
国内旅行	75780	67.0	(-2.8)	37185	67.5	(-3.3)	38595	66.5	(-2.5)
観光旅行	61635	54.5	(-2.3)	29564	53.7	(-2.6)	32072	55.3	(-2.0)
帰省・訪問等の旅行	30530	27.0	(-0.7)	14270	25.9	(-1.0)	16259	28.0	(-0.4)
業務出張・研修・その他	18403	16.3	(-1.7)	13546	24.6	(-2.4)	4857	8.4	(-1.0)
海外旅行	13203	11.7	(-0.4)	6492	11.8	(-0.7)	6710	11.6	(-0.1)
観光旅行	11325	10.0	(-0.4)	5047	9.2	(-0.6)	6277	10.8	(-0.2)
業務出張・研修・その他	2760	2.4	(-0.3)	2088	3.8	(-0.3)	673	1.2	(-0.1)

()内は平成8年との増減

(2) 女性の20歳代と30歳代で高い行動者率

「旅行・行楽」の行動者率を年齢階級別にみると、10歳代後半から年齢が高くなるに従って上昇し、30歳代後半で90.2%と最も高くなり、40歳代前半からは年齢が高くなるに従っておおむね低下している。これを平成8年と比較すると、10歳代を除くすべての年齢階級で低下している。特に、50歳代前半で低下幅が最も大きく、4.0ポイントとなっている。(図3-1)

また、男女別にみると、女性は20歳代前半から30歳代後半はほぼ同じ水準で高く、40歳代前半と70歳以上を除くすべての年齢階級で男性より高くなっている。(図3-2)

図3 - 1 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率 - 平成8年，13年

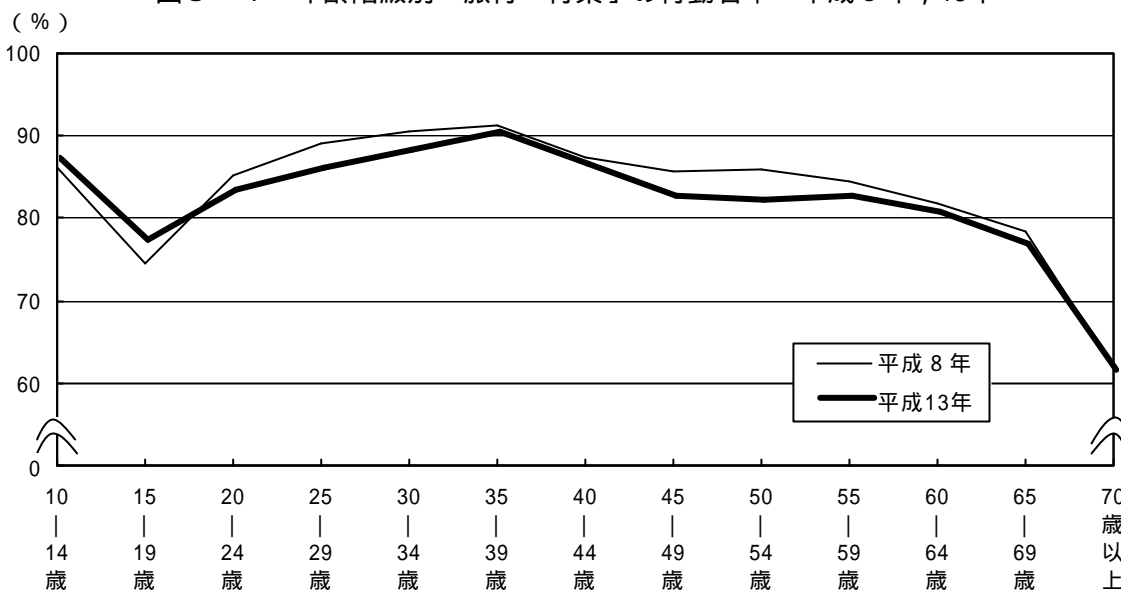
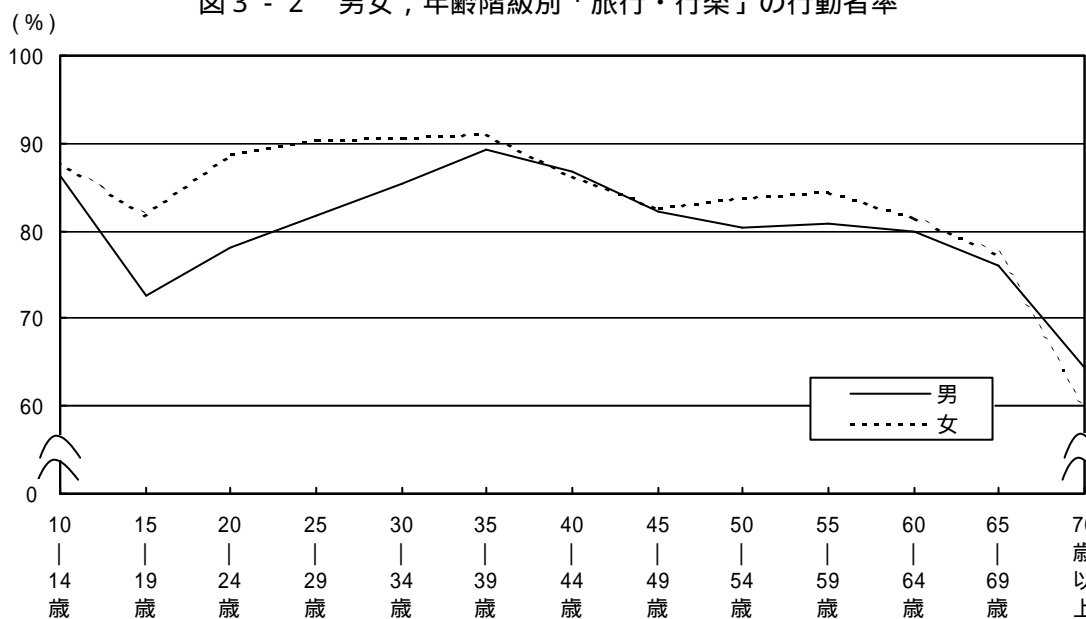


図3 - 2 男女，年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率



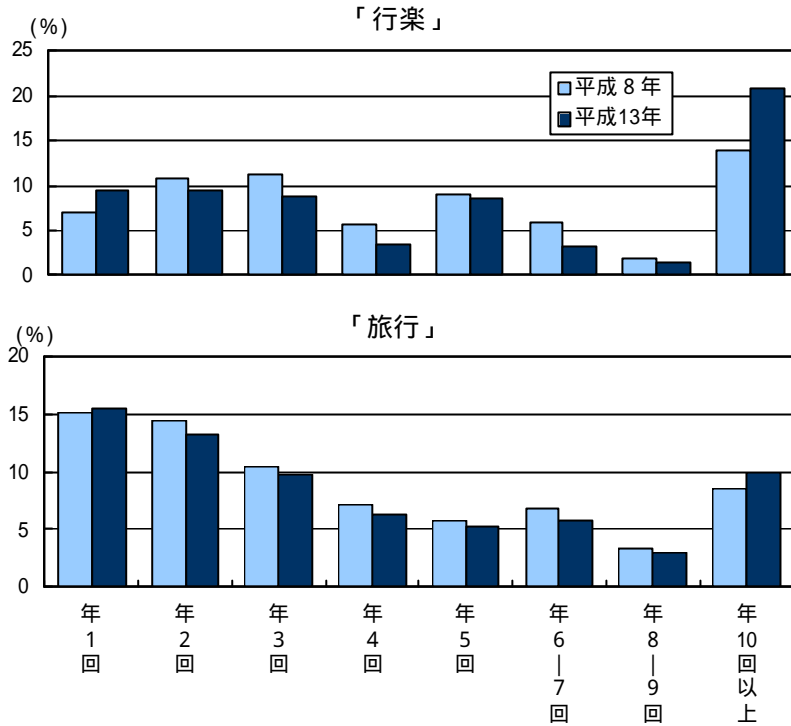
(3) 1泊2日以上の「旅行」の行動者率は7割近く

「旅行・行楽」の行動者率を「行楽」(日帰り)と「旅行」(1泊2日以上)に分けてみると、「行楽」は65.6%(行動者数7417万8千人)、「旅行」は68.7%(7768万4千人)と「旅行」が高く、7割近くの人が「旅行」をしている。これを平成8年と比較すると、「行楽」は0.3ポイント、「旅行」は2.8ポイント、それぞれ低下している。(表3 - 1)

行動者率を頻度別にみると、「行楽」は「年10回以上」が20.7%と最も高く、次いで、「年1回」と「年2回」がともに9.5%となっている。一方、「旅行」は「年1回」が15.5%と最も高く、次いで、「年2回」が13.3%、「年10回以上」が9.9%となっている。

これを平成8年と比較すると、「行楽」及び「旅行」とともに「年2回」から「年8~9回」の各頻度では低下しているが、「年1回」及び「年10回以上」は上昇している。(図3 - 3)

図3 - 3 頻度別の行動者率 - 平成8年, 13年



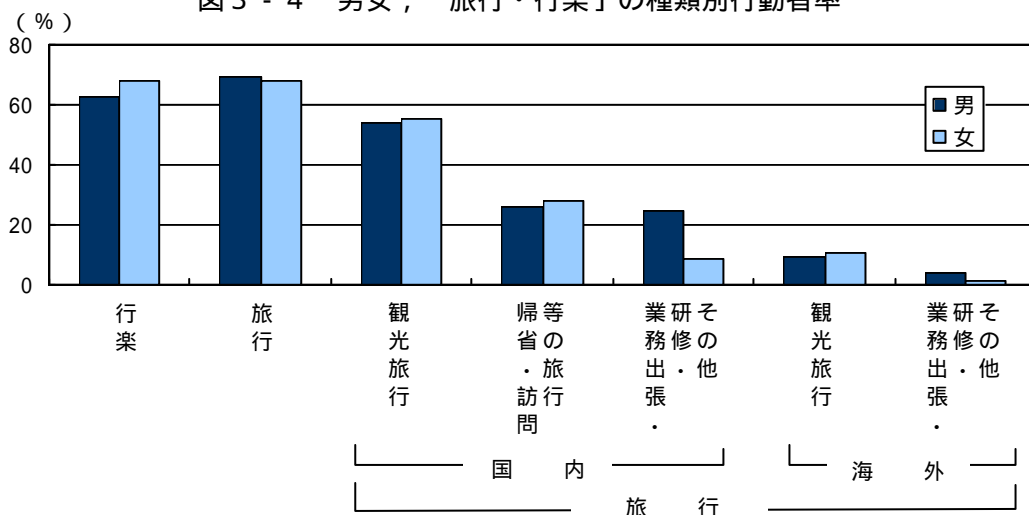
(4) 「行楽」の行動者率は、ほとんどの年齢層で女性が男性より高い

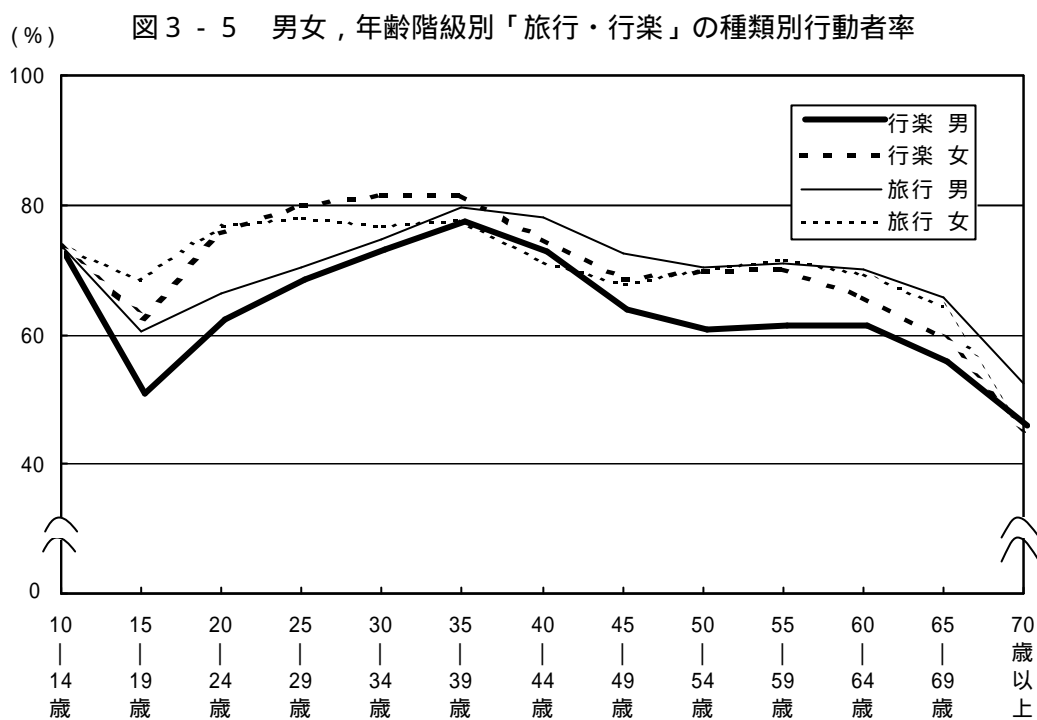
「旅行」と「行楽」の行動者率を男女別にみると、「行楽」は男性が62.9%,女性が68.2%、「旅行」は男性が69.2%、女性が68.2%となっており、「旅行」は男性の方が高く、「行楽」は女性の方が高くなっている。

ただし、「旅行」を種類別にみると、男性が女性より高いのは「業務出張・研修・その他」であり、「観光旅行」と「帰省・訪問等の旅行」では、女性が男性より高くなっている。(図3 - 4)

これを年齢階級別にみると、「行楽」では、70歳以上を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。一方、「旅行」では、10歳代後半から30歳代前半まで女性の方が高くなっているが、30歳代後半から50歳代前半では逆に男性の方が高くなっている。(図3 - 5)

図3 - 4 男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率





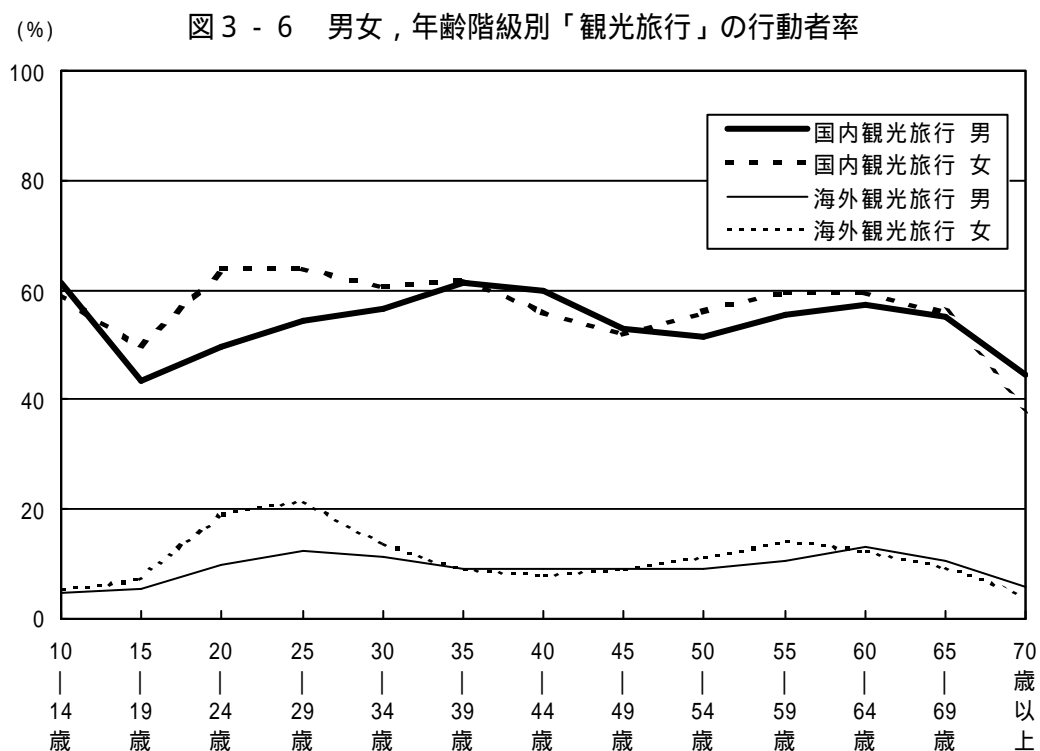
(5) 20歳代女性の5人に1人は海外観光旅行へ

「旅行」の行動者率をその種類別にみると、国内の「観光旅行」は男性が53.7%、女性が55.3%、海外の「観光旅行」は男性が9.2%、女性が10.8%と、いずれも女性が男性より高くなっている。

(図3-4)

これを年齢階級別にみると、国内の「観光旅行」では、男性は30歳代後半、女性は20歳代で最も高くなっている。他方、海外の「観光旅行」では、男性は60歳代前半、女性は20歳代後半で最も高くなっており、とりわけ20歳代の女性が高く、おおむね5人に1人の割合となっている。

(図3-6)



(6) 「家族」と旅行した人は約 5026 万人，行動者率は 44.4%

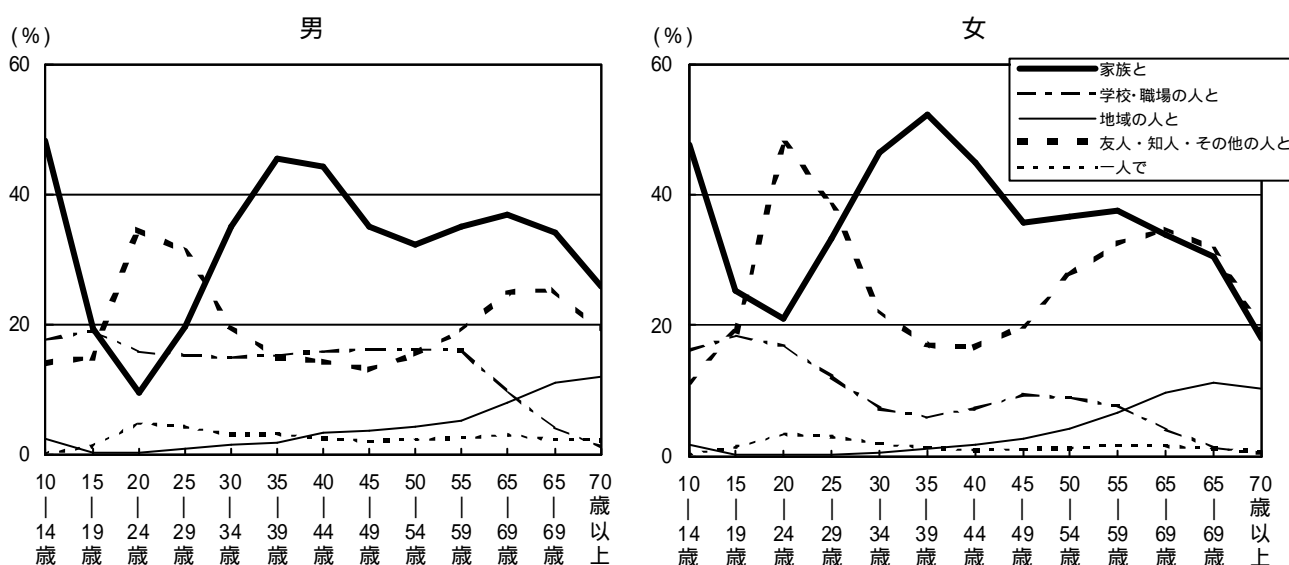
「旅行」した人を「共にした人」別(複数回答)にみると、「家族と」が 5025 万 8 千人(行動者率 44.4%)で最も多く、次いで、「友人・知人・その他の人と」が 3021 万 9 千人(26.7%)、「学校・職場の人と」が 2291 万人(20.3%)、「一人で」が 1491 万 9 千人(13.2%)となっている。

「旅行」のうち「観光旅行」について年齢階級別にみると、国内では男女ともほとんどの年齢階級で「家族と」が最も高く、特に、10 歳代前半と 30 歳代を中心とする年齢階級では 4 割以上の人が家族旅行を経験している。しかし、20 歳代では「友人・知人・その他の人と」が最も高く、特に 20 歳代前半では「家族と」の 2 倍以上に達している。

また、海外についても男女ともほとんどの年齢階級で「家族と」が最も高いものの、女性では 20 歳代で「友人・知人・その他の人と」が 10%以上と、そのほかの年齢階級と比べて著しく高く、行動者率が 5%を下回る同年代の男性とは対照的である。(図 3 - 7)

図 3 - 7 年齢階級，共にした人別「観光旅行」の行動者率

「国内観光旅行」



「海外観光旅行」

